



令和6年度第11回 九州地区高校生 介護技術コンテスト (長崎大会) エントリー生徒 アンケート

資料作成：全国福祉高等学校長会

「高校生介護技術コンテストのあり方に関する検討会」

検討委員：原慶介(佐賀県)・日高航成(福岡県)

学習レベル編 【全員回答】

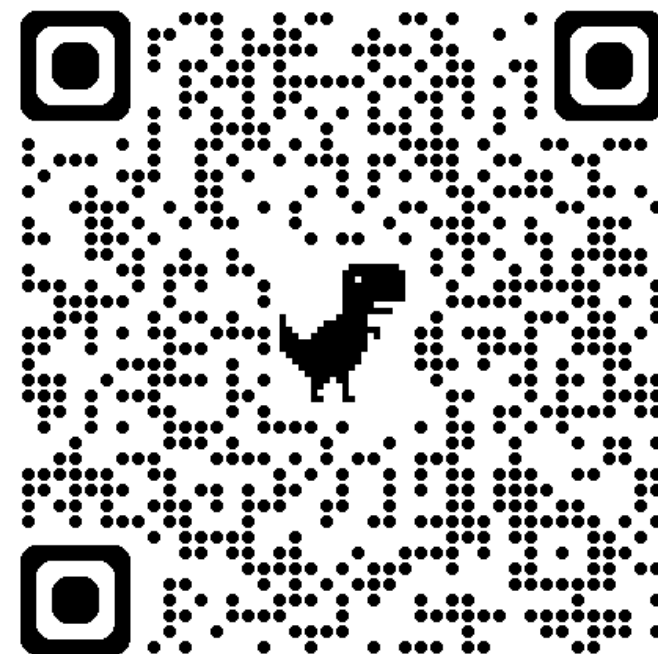
○対象者：出場8校×最大4名
(分母29に対し、データは重複
回答1名分を含むため、百分率
に換算)

○アンケート方法：コンテスト
終了後、一定期間内にQRコード
を読み取り、Google Formsにて
回答

○回答率：103.1%

○所属先(学校名)・学年・役割
(選手or補欠)

第6回 九州地区 高校生介護技術 コンテスト・ エントリー生徒 アンケート 【学習レベル編】



【学習レベル編】

チーム人数	4人	3人	
	5	3	
学年	3年生(人数)	2年生(人数)	1年生(人数)
	16	10	4
役割	選手(人数)	補欠(人数)	
	16	14	

具体的な例を挙げて凡例を表示

介護福祉士（または介護職）として求められる能力について、高校や施設実習等での介護福祉に関する学びを通して、現時点でのあなたの学習レベルを自己評価してください。

【選択肢の解説】 例）入浴介助について

イ）知っているまたはできる ⇒ 入浴介助の必要性や基本的な手順を知っている
または学校で実技ができる状態

ウ）わかる ⇒ 入浴介助の手順や技術がなぜ必要か、その背景や理論を理解している状態

エ）使える ⇒ 理解した知識や技術を実際の介護現場（実習）で実践できる状態

※参考資料）介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書より項目を活用し、一部改編

見出しにて質問の意図をそれぞれに表示（問1～問2 / 全7問中）

- 問1：「介護を実践するための基本能力」
さまざまな生活背景や多様な価値観をもつ対象に対して、介護福祉の専門職として、人権尊重や権利擁護を基盤に人間関係を形成する能力について質問です。
- 問2：「対象となる人を生活者として理解する能力」
介護の対象となる人を生活者にとらえ、身体的・心理的・社会的・実存的（現実的）側面から全人的に理解し、生活環境やライフサイクルの観点からも理解することができる能力について質問です。

見出しにて質問の意図をそれぞれに表示（問3～問4 / 全7問中）

- 問3：「心身の状況に応じた介護を実践する能力」
対象となる人をエンパワメントするかかわりや、対象となる人の心身の状況に応じて日常生活や社会生活を支援すること、障害や認知症あるいは介護予防や終末期などの特定の状態・状況にある人に対して支援する能力について質問です。
- 問4：「多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力」
介護の対象となる人の生活の場や状況に応じて支援することや、安心・安全な生活環境を整えること、制度や社会資源を活用して支援すること、災害などの非常事態に対応して支援する能力について質問です。

見出しにて質問の意図をそれぞれに表示（問5～問6 / 全7問中）

- 問5：「介護過程を展開する実践能力」

知識・技術を用いてアセスメントし、アセスメントに基づき介護計画を作成する能力です。さらに、介護計画に対して根拠に基づき生活支援技術を適切に実践すること、実践を評価し、評価をもとに改善につなげる能力について質問です。

- 問6：「チームで働くための実践能力」

同職種及び多職種からなる包括的なチームで働くため、チームの一員としての役割を自覚し協働する能力、多職種・機関などと連携する能力について質問です。

見出しにて質問の意図をそれぞれ に表示（問7 / 全7問中）

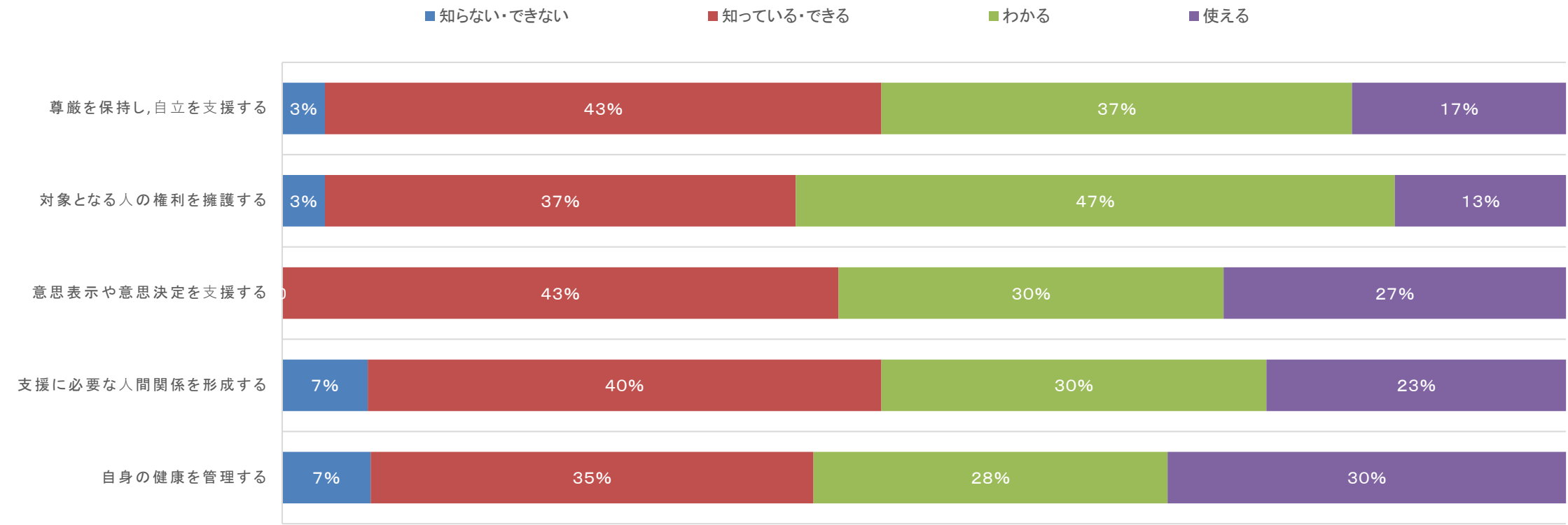
- 問7：「専門職として成長し続ける能力」

介護福祉士（または介護職）としての専門的能力を発展させながら成長し続けていくことを意味します。そのために、実践の中で研鑽し研究することや、介護にかかわる情報を適切な方法で発信することができる能力について質問です。

1 介護を実践するための基本能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
尊厳を保持し,自立を支援する	1	13	11	5
対象となる人の権利を擁護する	1	11	14	4
意思表示や意思決定を支援する	0	13	9	8
支援に必要な人間関係を形成する	2	12	9	7
自身の健康を管理する	2	10	8	9

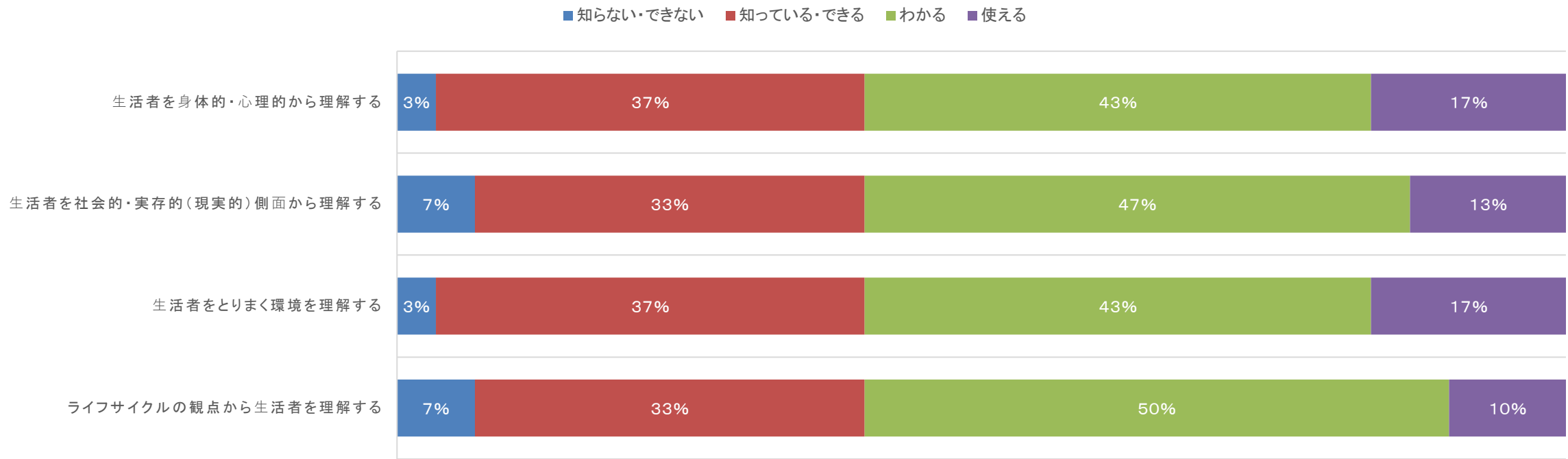
【学習レベル編】 1 介護を実践するための基本能力
(百分率に換算)



2 対象となる人を生活者として理解する能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
生活者を身体的・心理的から理解する	1	11	13	5
生活者を社会的・実存的(現実的)側面から理解する	2	10	14	4
生活者をとりまく環境を理解する	1	11	13	5
ライフサイクルの観点から生活者を理解する	2	10	15	3

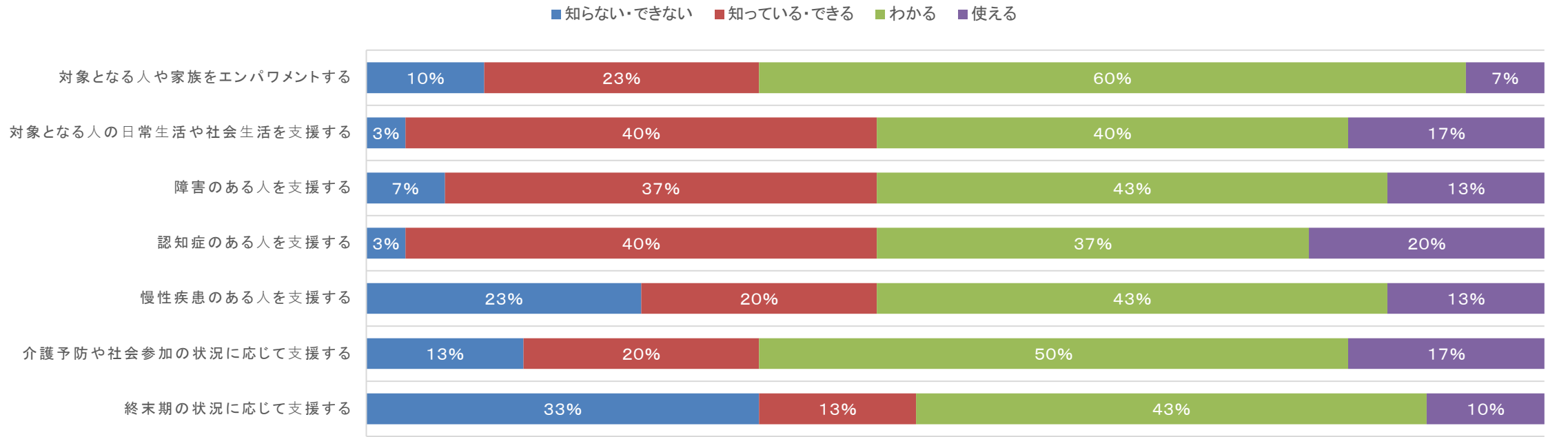
【学習レベル編】 2 対象となる人を生活者として理解する能力
(百分率に換算)



3 心身の状況に応じた介護を実践する能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
対象となる人や家族をエンパワメントする	3	7	18	2
対象となる人の日常生活や社会生活を支援する	1	12	12	5
障害のある人を支援する	2	11	13	4
認知症のある人を支援する	1	12	11	6
慢性疾患のある人を支援する	7	6	13	4
介護予防や社会参加の状況に応じて支援する	4	6	15	5
終末期の状況に応じて支援する	10	4	13	3

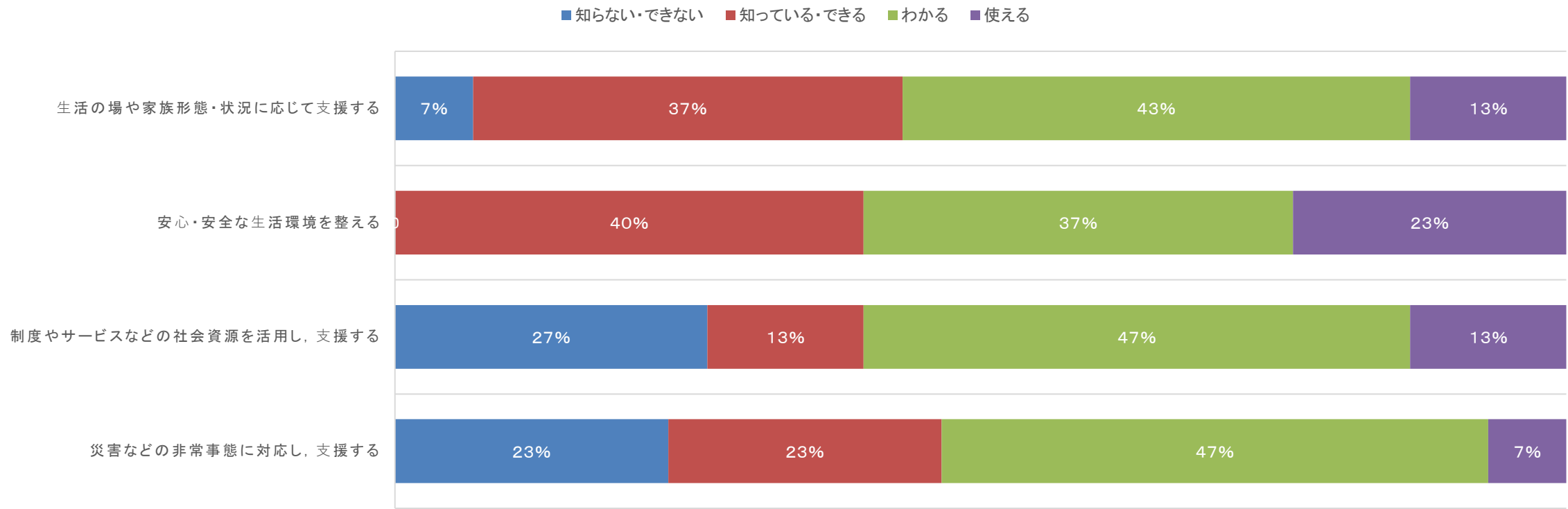
【学習レベル編】 3 心身の状況に応じた介護を実践する能力
(百分率に換算・集計値の合計が100%とならないものがある)



4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
生活の場や家族形態・状況に応じて支援する	2	11	13	4
安心・安全な生活環境を整える	0	12	11	7
制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する	8	4	14	4
災害などの非常事態に対応し、支援する	7	7	14	2

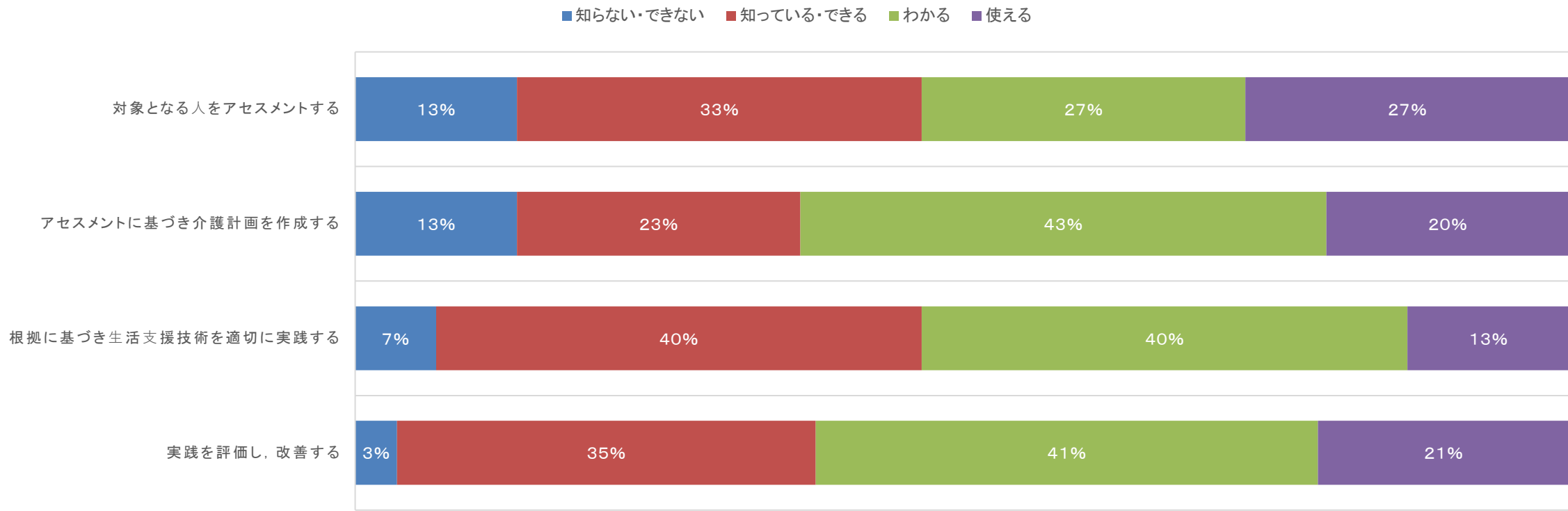
【学習レベル編】 4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力
(百分率に換算)



5 介護過程を展開する実践能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
対象となる人をアセスメントする	4	10	8	8
アセスメントに基づき介護計画を作成する	4	7	13	6
根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する	2	12	12	4
実践を評価し, 改善する	1	10	12	6

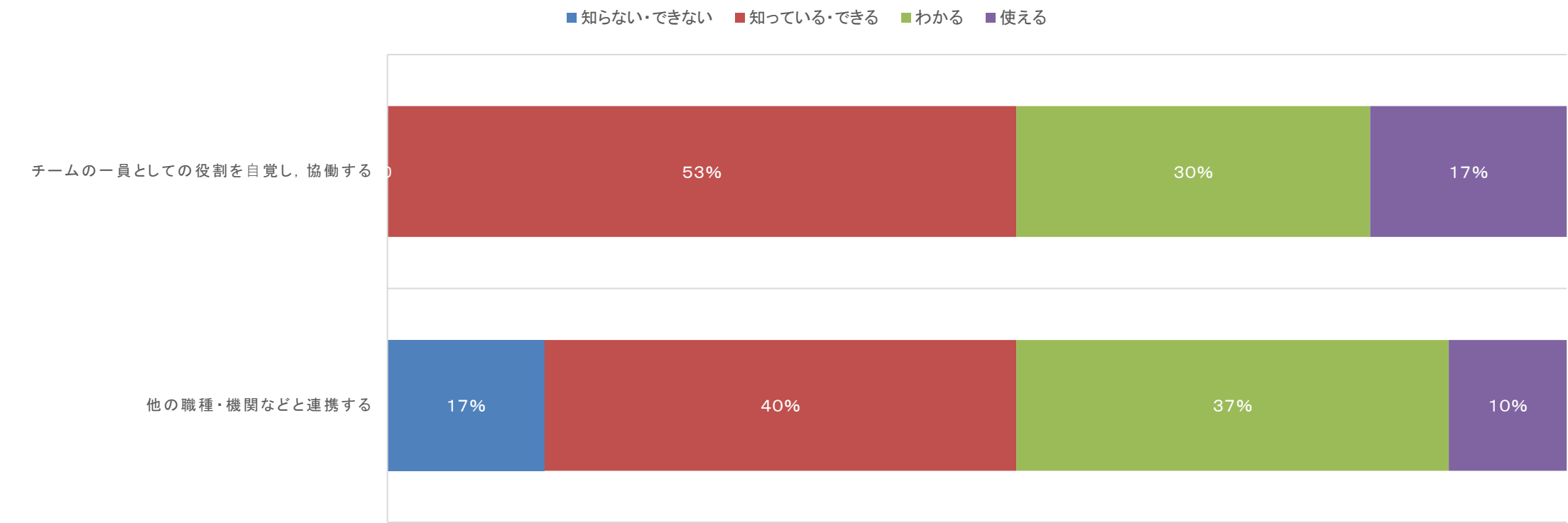
【学習レベル編】 5 介護過程を展開する実践能力
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある



6 チームで働くための実践能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
チームの一員としての役割を自覚し, 協働する	0	16	9	5
他の職種・機関などと連携する	4	12	11	3

【学習レベル編】 6 チームで働くための実践能力
(百分率に換算)

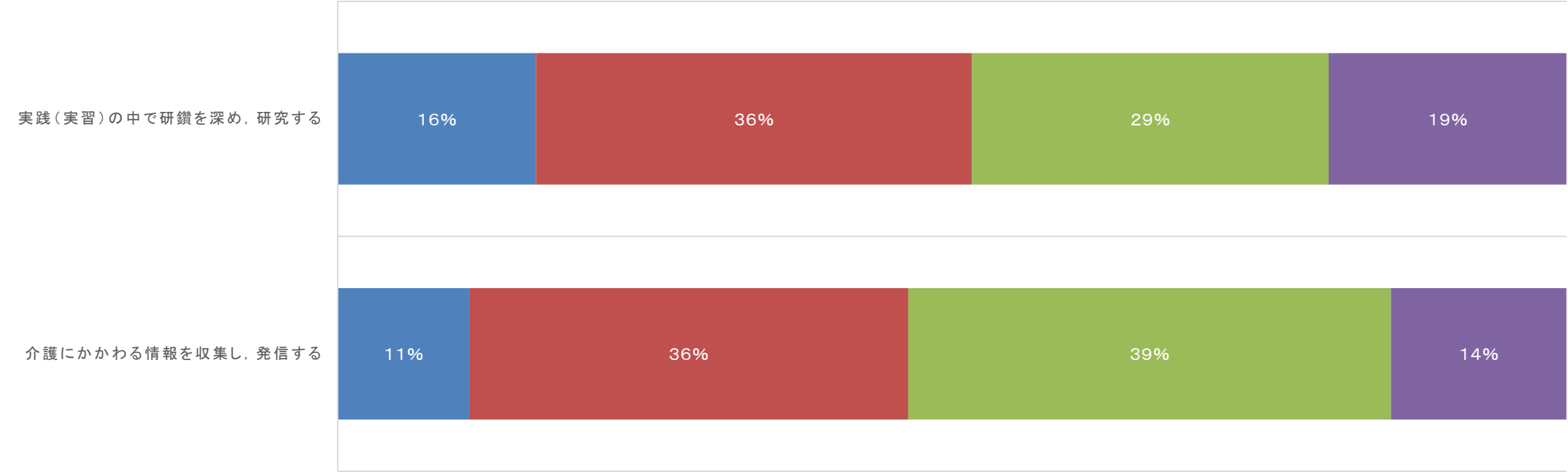


7 専門職として成長し続ける能力(人数)

項 目	1 知らない・できない	2 知っている・できる	3 わかる	4 使える
実践(実習)の中で研鑽を深め, 研究する	5	11	9	6
介護にかかわる情報を収集し, 発信する	3	10	11	4

【学習レベル編】 7 専門職として成長し続ける能力
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

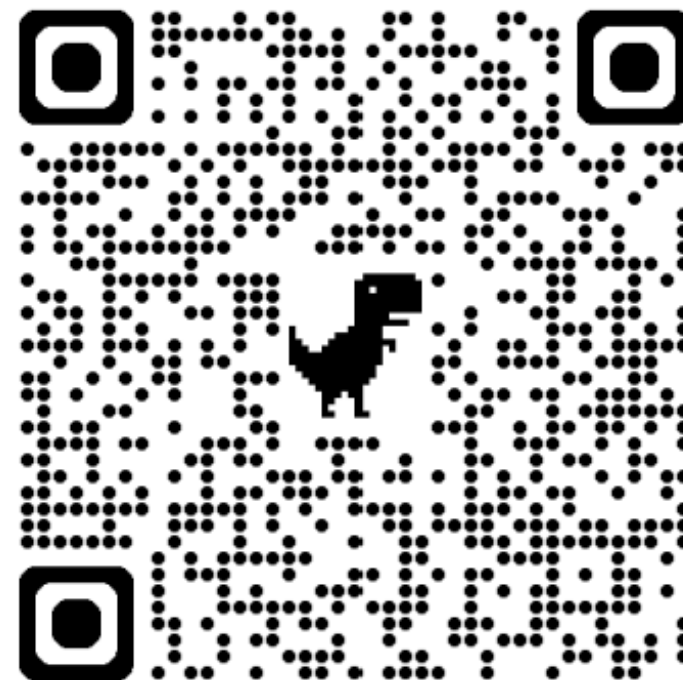
■ 知らない・できない ■ 知っている・できる ■ わかる ■ 使える



事前学習編 【全員回答】

- 対象者：出場8校×最大4名
(分母22のデータは重複回答
1分名を含む&未回答校1校が
るため、百分率に換算)
- アンケート方法：コンテス
ト終了後、一定期間内にQR
コードを読み取り、Google
Formsにて回答
- 回答率：103.2%
- 所属先(学校名)・学年・役割
(選手or補欠)

令和6年度 九州地区高校 生介護技術コ ンテスト・ エントリー生 徒アンケート 【事前学習編】



【事前学習編】

チーム人数	4人	2人	
	4	3	
学年	3年生	2年生	1年生
	9	9	4
役割	選手	補欠	
	12	10	

見出しで選択肢の解説を表示

事前課題の学習に向けたチームの学習過程の視点について、評価してください。

【選択肢の解説】

- 1 情報収集した⇒必要な情報を取り出したり収集したりした（本やインターネットで調べたり、専門職にアドバイスを受けるなど）
- 2 整理・分析した⇒収集した情報を整理したり分析したりして思考した
- 3 まとめ・表現した⇒気づきや発見、考えなどをまとめ、利用者役と介護者に分かれて演習やプレゼンなどの課題検討に取り入れた

参考資料）介護福祉士養成課程における修得度教科基準の策定等に関する調査
研究事業報告書より項目を活用

見出しにて質問の意図をそれぞれに表示（問1～問2 / 全7問中）

- 問1：「介護を実践するための基本能力」
さまざまな生活背景や多様な価値観をもつ対象に対して、介護福祉の専門職として、人権尊重や権利擁護を基盤に人間関係を形成する能力について質問です。
- 問2：「対象となる人を生活者として理解する能力」
介護の対象となる人を生活者にとらえ、身体的・心理的・社会的・実存的（現実的）側面から全人的に理解し、生活環境やライフサイクルの観点からも理解することができる能力について質問です。

見出しにて質問の意図をそれぞれ に表示（問3～問4 / 全7問中）

- 問3：「心身の状況に応じた介護を実践する能力」
対象となる人をエンパワメントするかかわりや、対象となる人の心身の状況に応じて日常生活や社会生活を支援すること、障害や認知症あるいは介護予防や終末期などの特定の状態・状況にある人に対して支援する能力について質問です。
- 問4：「多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力」
介護の対象となる人の生活の場や状況に応じて支援することや、安心・安全な生活環境を整えること、制度や社会資源を活用して支援すること、災害などの非常事態に対応して支援する能力について質問です。

見出しにて質問の意図をそれぞれに表示（問5～問6 / 全7問中）

- 問5：「介護過程を展開する実践能力」

知識・技術を用いてアセスメントし、アセスメントに基づき介護計画を作成する能力です。さらに、介護計画に対して根拠に基づき生活支援技術を適切に実践すること、実践を評価し、評価をもとに改善につなげる能力について質問です。

- 問6：「チームで働くための実践能力」

同職種及び多職種からなる包括的なチームで働くため、チームの一員としての役割を自覚し協働する能力、多職種・機関などと連携する能力について質問です。

見出しにて質問の意図をそれぞれ に表示（問7 / 全7問中）

- 問7：「専門職として成長し続ける能力」

介護福祉士（または介護職）としての専門的能力を発展させながら成長し続けていくことを意味します。そのために、実践の中で研鑽し研究することや、介護にかかわる情報を適切な方法で発信することができる能力について質問です。

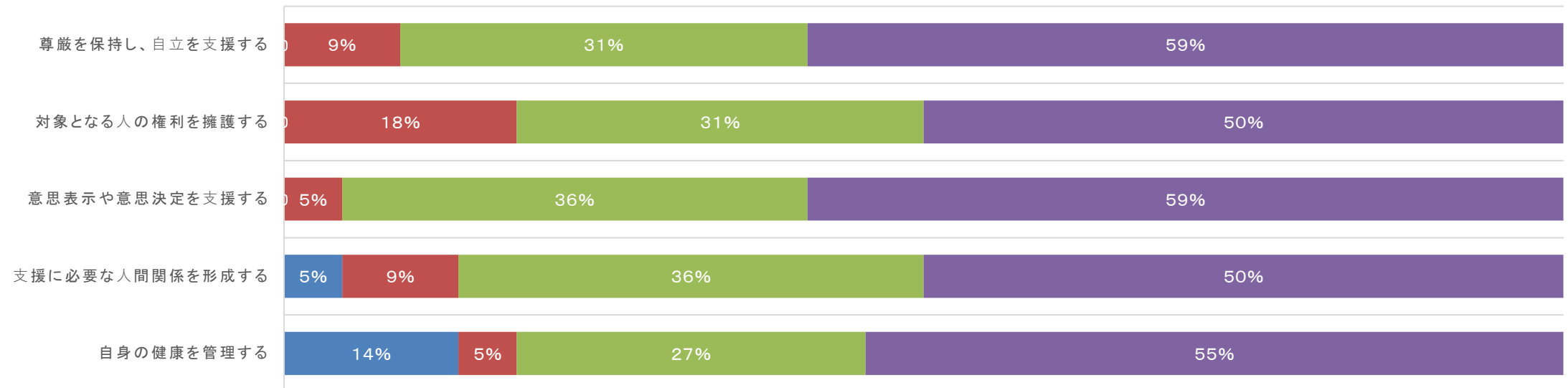
1 介護を実践するための基本能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
尊厳を保持し、自立を支援する	0	2	7	13
対象となる人の権利を擁護する	0	4	7	11
意思表示や意思決定を支援する	0	1	8	13
支援に必要な人間関係を形成する	1	2	8	11
自身の健康を管理する	3	1	6	12

【事前学習編】

(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

■ 1 検討していない ■ 2 情報を収集した ■ 3 整理・分析した ■ 4 まとめ・表現した

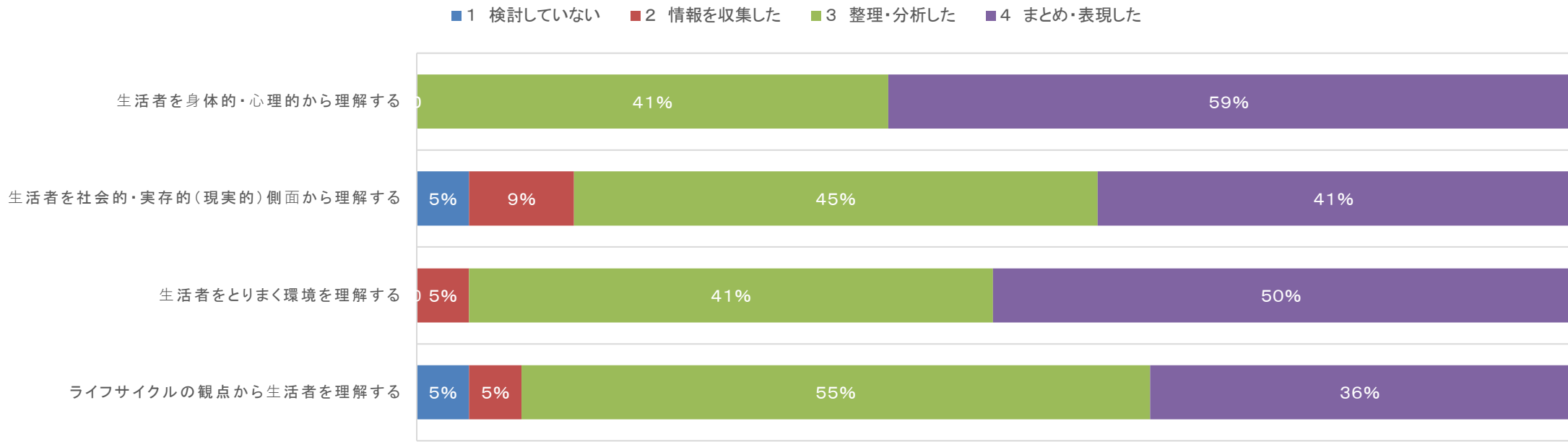


2 対象となる人を生活者として理解する能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
生活者を身体的・心理的から理解する	0	0	9	13
生活者を社会的・実存的(現実的)側面から理解する	1	2	10	9
生活者をとりまく環境を理解する	0	1	10	11
ライフサイクルの観点から生活者を理解する	1	1	12	8

【事前学習編】

(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

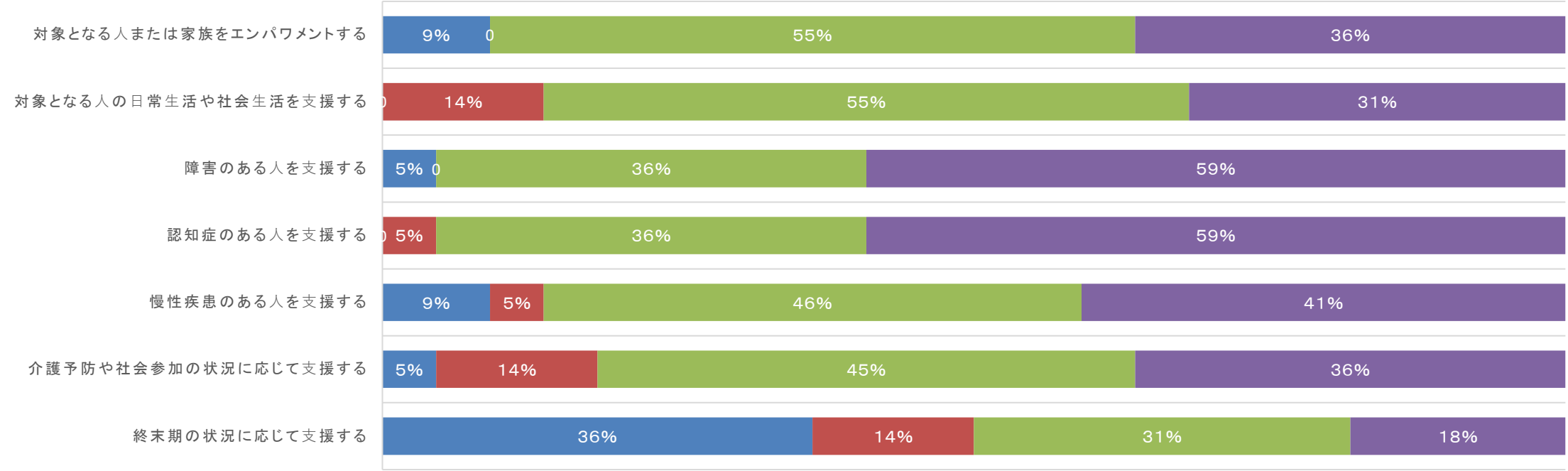


3 心身の状況に応じた介護を実践する能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
対象となる人または家族をエンパワメントする	2	0	12	8
対象となる人の日常生活や社会生活を支援する	0	3	12	7
障害のある人を支援する	1	0	8	13
認知症のある人を支援する	0	1	8	13
慢性疾患のある人を支援する	2	1	10	9
介護予防や社会参加の状況に応じて支援する	1	3	10	8
終末期の状況に応じて支援する	8	3	7	4

【事前学習編】
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

■ 1 検討していない ■ 2 情報を収集した ■ 3 整理・分析した ■ 4 まとめ・表現した

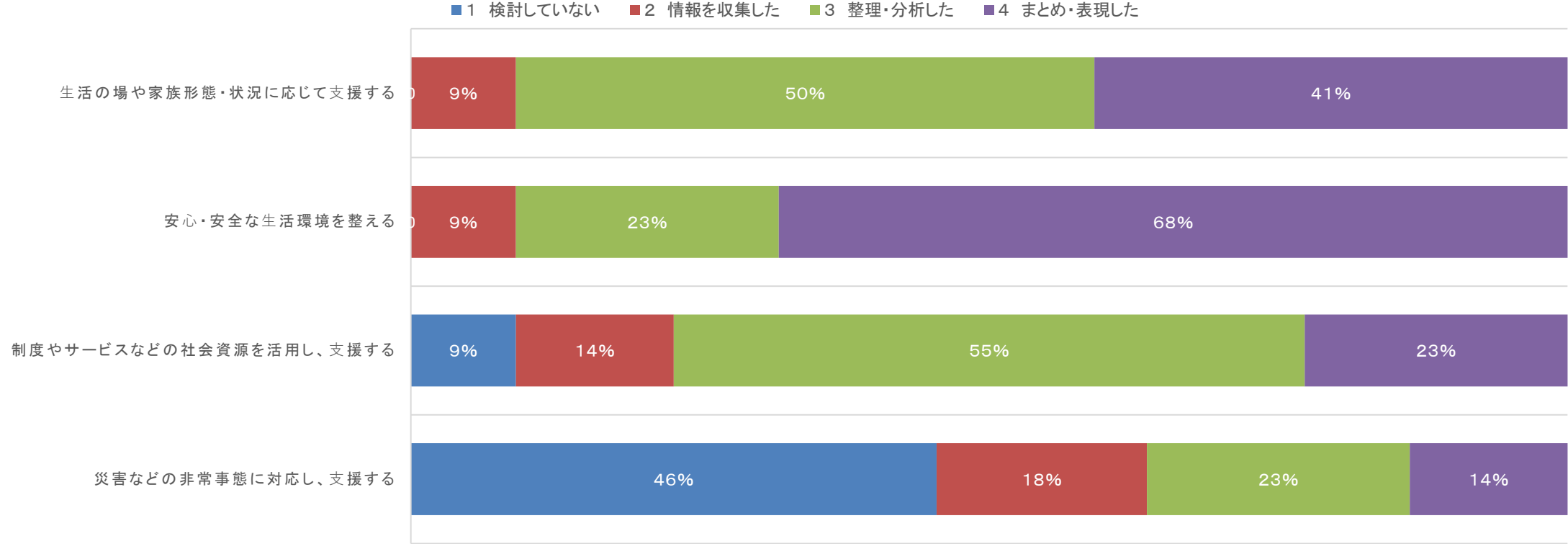


4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
生活の場や家族形態・状況に応じて支援する	0	2	11	9
安心・安全な生活環境を整える	0	2	5	15
制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する	2	3	12	5
災害などの非常事態に対応し、支援する	10	4	5	3

【事前学習編】

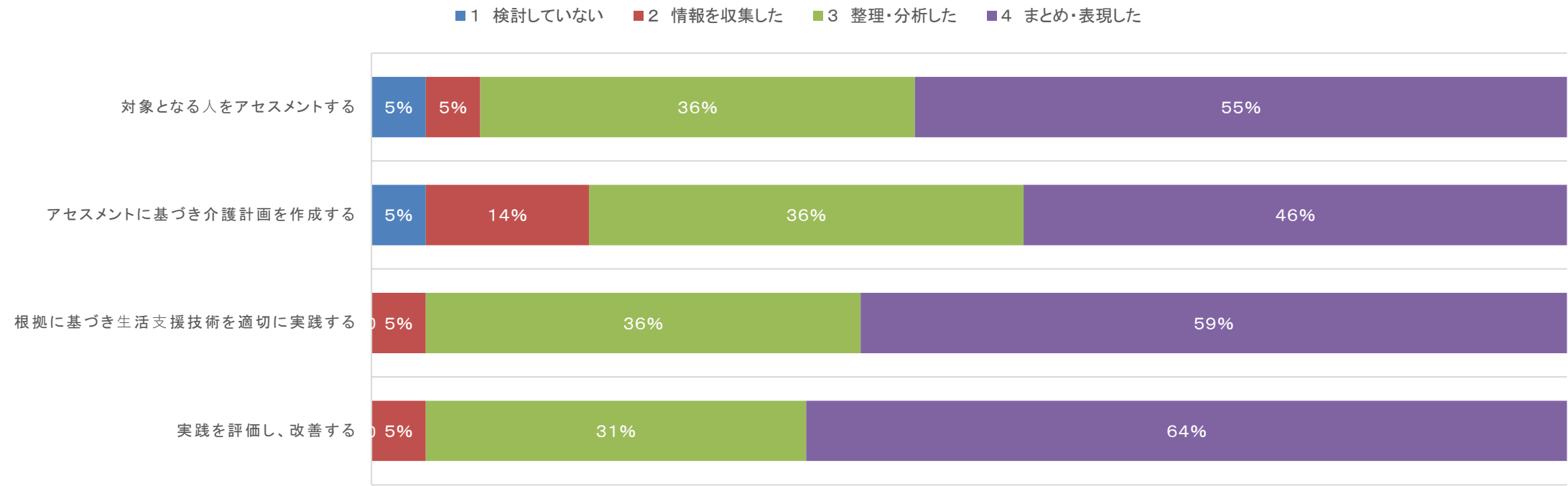
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある



5 介護過程を展開する実践能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
対象となる人をアセスメントする	1	1	8	12
アセスメントに基づき介護計画を作成する	1	3	8	10
根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する	0	1	8	13
実践を評価し、改善する	0	1	7	14

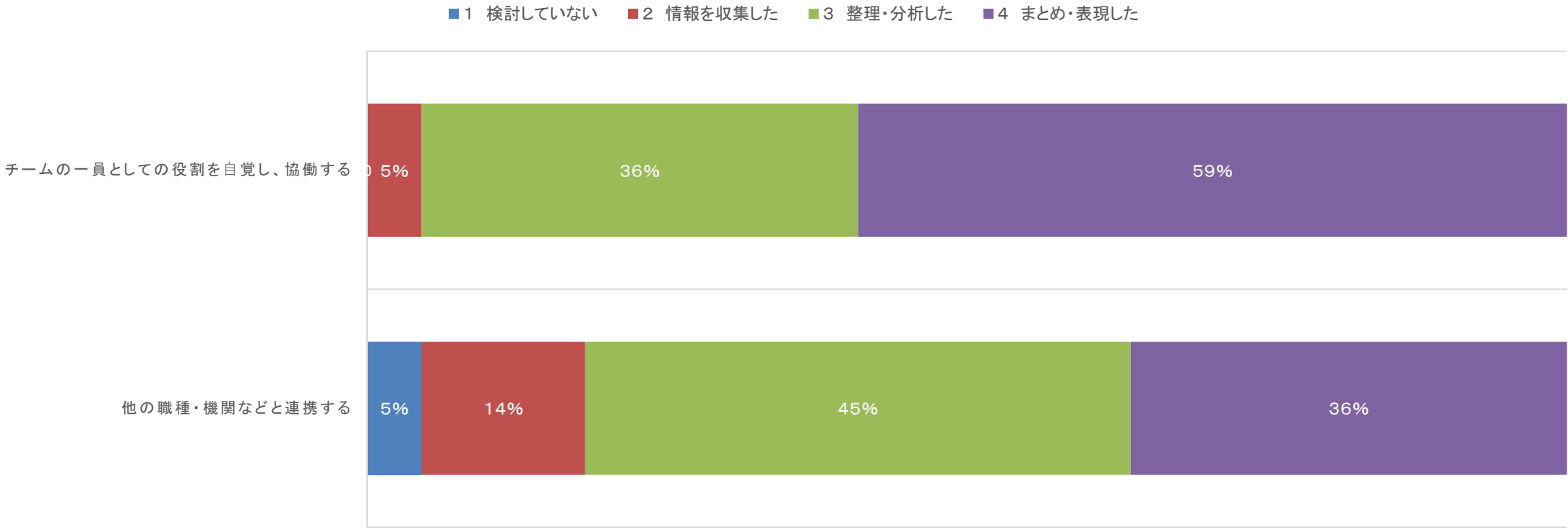
【事前学習編】
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある



6 チームで働くための実践能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
チームの一員としての役割を自覚し、協働する	0	1	8	13
他の職種・機関などと連携する	1	3	10	8

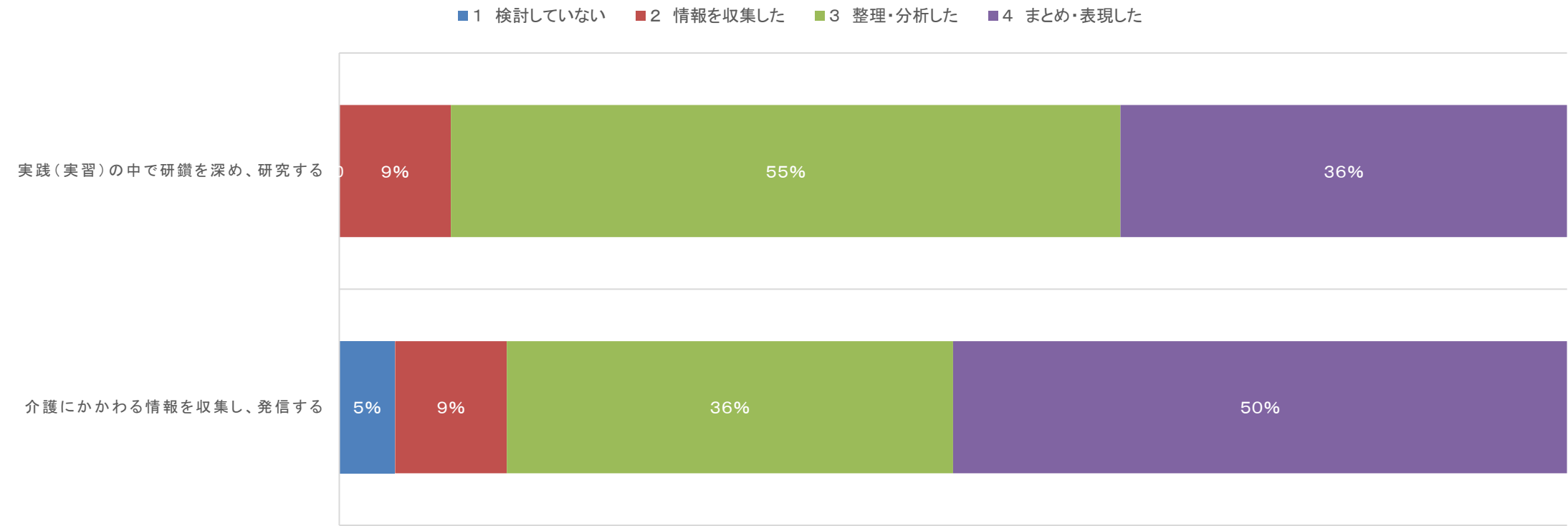
【事前学習編】
(百分率に換算)



7 専門職として成長し続ける能力(人数)

項 目	1 検討していない	2 情報を収集した	3 整理・分析した	4 まとめ・表現した
実践(実習)の中で研鑽を深め、研究する	0	2	12	8
介護にかかわる情報を収集し、発信する	1	2	8	11

【事前学習編】
(百分率に換算)



8 事前課題を検討する時間や場所について、具体的に書いてください。

「例：自分の学校で一日2時間程度平日に行った、介護施設に出向いて4時間行ったなど」(人数)

曜日	2時間程度	2～3時間程度	3時間程度	4時間程度	5時間程度	6時間程度	7時間程度	8時間程度	9時間程度
平日	1	4	1			1	①		
記載なし	1		2	2	2	4	③	1	②
休日・ 長期休業中						1	1		
計	2	4	3	2	2	6	5	1	2

※表に含められなかったもの……「時間のある限り」「日曜日に学校に来て、先輩方の介護を受けてみて…」「介護実習で職員さんに…」

※①は「土日除く」の記載あり・②③のうち各1名は「毎日」「休みなしで」の記載あり

場所	学校・実習室・ 自分の学校	自分の家	その他※
人数	24	1	3

※専門学校1時間程度・久留米リハビリテーション学院3時間・近隣の大学2時間

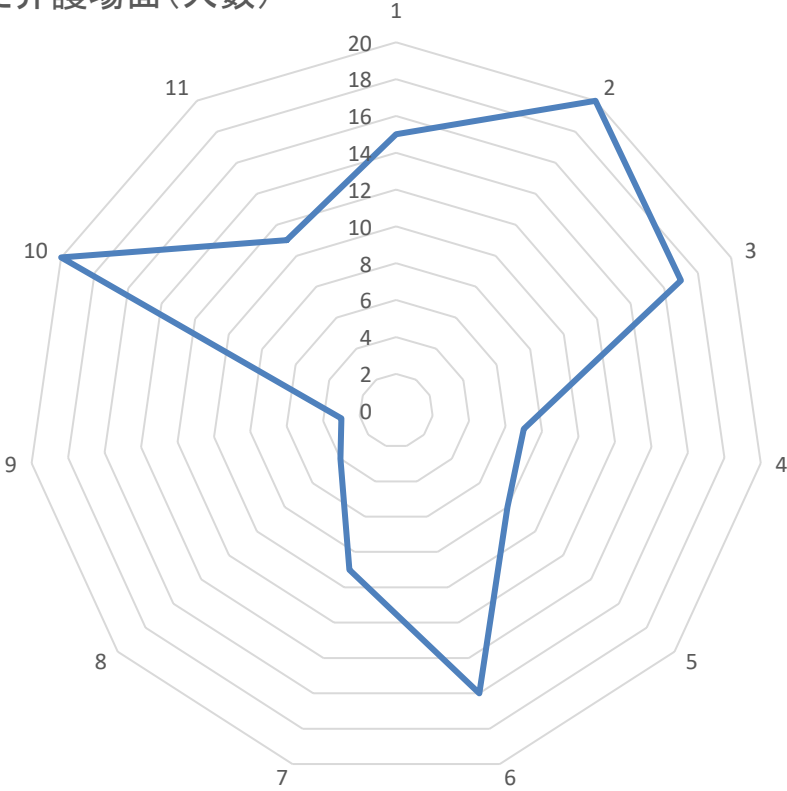
9 課題等を受け取ってから大会当日までの総練習時間を教えてください。(おおよそで)

	50時間	70時間	80時間	100時間	120時間	100時間以上	9時間×25日間程度	1日8時間を30日
時間&日にちor 日にちを回答	1	1	1	5	1	1	1	1
	2週間	20日くらい	30日	1か月				
日にちのみ回答	1	1	1	2				
	たくさん	わからない ・計算できない						
具体的表記なし	2	2						

11 学校や自宅などで検討する際に、想定した介護場面にすべて選択してください(人数)

①居住環境の整備	②移動に関する介助	③身じたくに関連する介助	④食事に関連する介助	⑤入浴に関連する介助	⑥清潔保持に関連する介助	⑦排泄に関連する介助	⑧家事に関連する支援	⑨睡眠に関連する支援	⑩福祉用具に関連する支援	⑪介護予防に関連する支援
15	20	17	7	8	16	9	4	3	20	11

11 想定した介護場面(人数)



13 大会当日に向けて、事前学習する際に、チームで心がけた点や工夫した点を教えてください

- ① 利用者さんの想いに寄り添う
- ② 利用者の背景
- ③ 利用者の自己決定
- ④ 利用者様が楽になるかどうか
- ⑤ 常に、利用者さんの気持ちを第一に考えました
- ⑥ その人にあった介護を行うこと
- ⑦ 決めつけの介助にならないこと

13 大会当日に向けて、事前学習する際に、チームで心がけた点や工夫した点を教えてください

- ⑧ 色々です
- ⑨ 徹夜した
- ⑩ 疑問点を出し合い、根拠を持って介護を行なった
- ⑪ 全員で意見を出し合い複数の方向から検討することを意識した
- ⑫ 様々な視点からアプローチをすることを意識した
- ⑬ 役割分担をして、取り組むことができた
- ⑭ いろんな視点から利用者の状態を観察できた

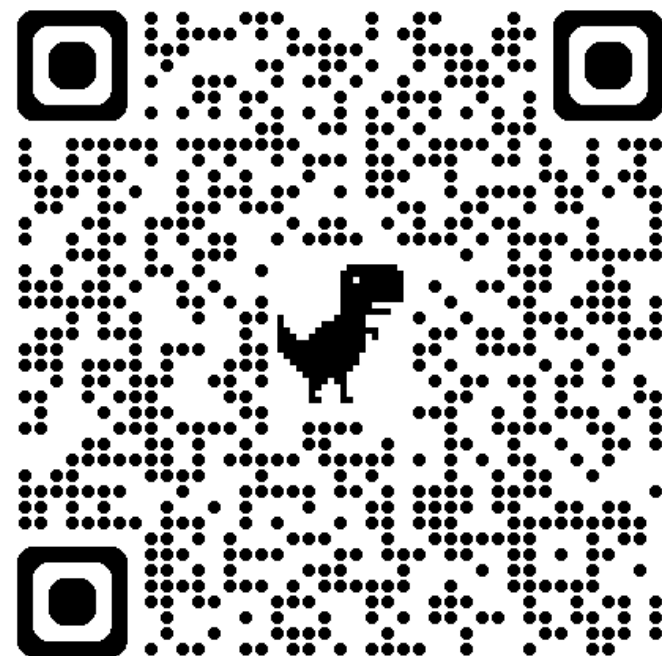
13 大会当日に向けて、事前学習する際に、チームで心がけた点や工夫した点を教えてください

- ⑮ みんなで役割分担をする、1人に負担がかからないようにする得意な人が苦手な人をカバー
- ⑯ 気づいた点は皆んなで共有した
- ⑰ 安心してもらえる支援をできるような声掛けを工夫した
- ⑱ 全部に根拠をつける、聞き取りやすい声
- ⑲ 情報に対して根拠をつける
- ⑳ 意見を出し合う
- ㉑ 連携
- ㉒ 特になし

課題検討編 【全員回答】

- 対象者：出場8校×最大4名
(分母29に対し、データは重複回答1分名を含むため、百分率に換算)
- アンケート方法：コンテスト終了後、一定期間内にQRコードを読み取り、Google Formsにて回答
- 回答率：110.1%
- 所属先(学校名)・学年・役割
(選手or補欠)

令和6年度 九州地区高校生 介護技術コ ンテスト・ エントリー生 徒アンケート 【課題検討編】



【事前課題検討編】

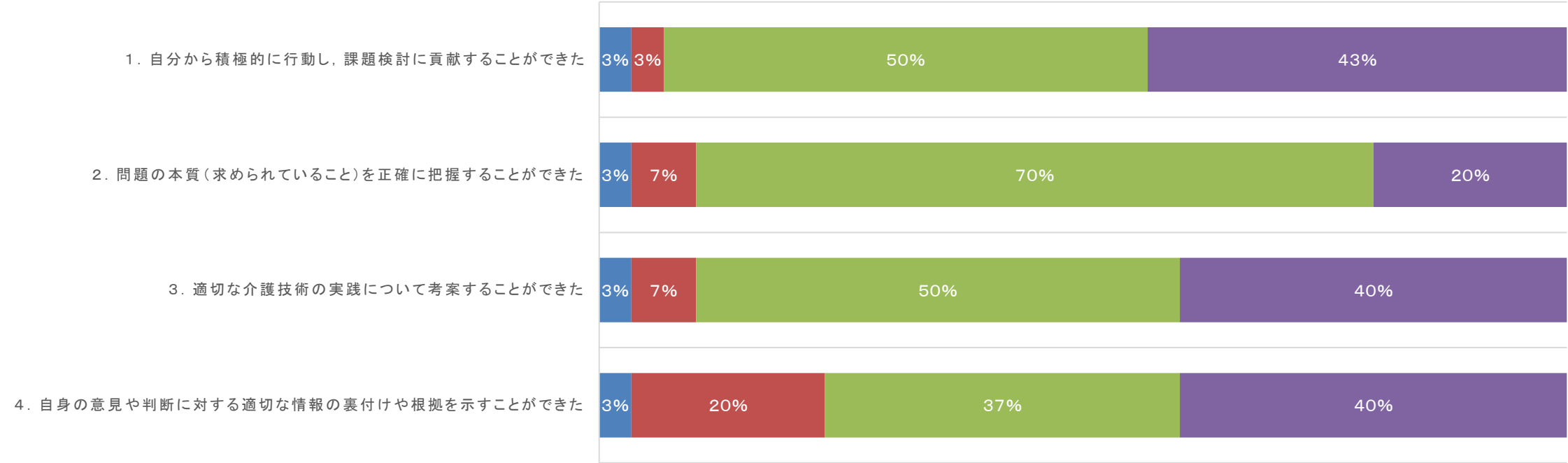
チーム人数	4人	3人		
	5	3		
学年	3年生(人数)	2年生(人数)	1年生(人数)	
	16	10	4	
役割	選手(人数)	補欠(人数)		
	16	14		

質問について、あてはまる項目を1つ選んでください。(人数)

項 目	1 まったくそう思わない	2 そう思わない	3 そう思う	4 強くそう思う
1. 自分から積極的に行動し、課題検討に貢献することができた	1	1	15	13
2. 問題の本質(求められていること)を正確に把握することができた	1	2	21	6
3. 適切な介護技術の実践について考案することができた	1	2	15	12
4. 自身の意見や判断に対する適切な情報の裏付けや根拠を示すことができた	1	6	11	12

【課題検討編】 №1～№4/全16問中
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

■ 1 まったくそう思わない ■ 2 そう思わない ■ 3 そう思う ■ 4 強くそう思う



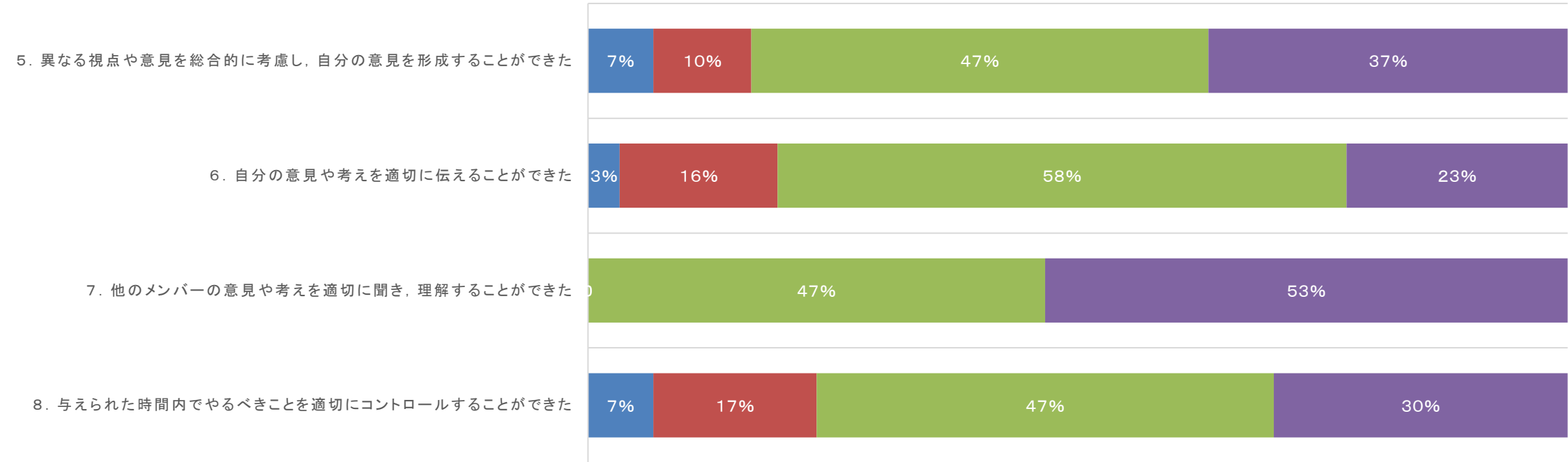
質問について、あてはまる項目を1つ選んでください。(人数)

項 目	1 まったくそう思わない	2 そう思わない	3 そう思う	4 強くそう思う
5. 異なる視点や意見を総合的に考慮し、自分の意見を形成することができた	2	3	14	11
6. 自分の意見や考えを適切に伝えることができた	1	5	18	7
7. 他のメンバーの意見や考えを適切に聞き、理解することができた	0	0	14	16
8. 与えられた時間内でやるべきことを適切にコントロールすることができた	2	5	14	9

【課題検討編】 №5～№8/全16問中

(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

■ 1 まったくそう思わない ■ 2 そう思わない ■ 3 そう思う ■ 4 強くそう思う

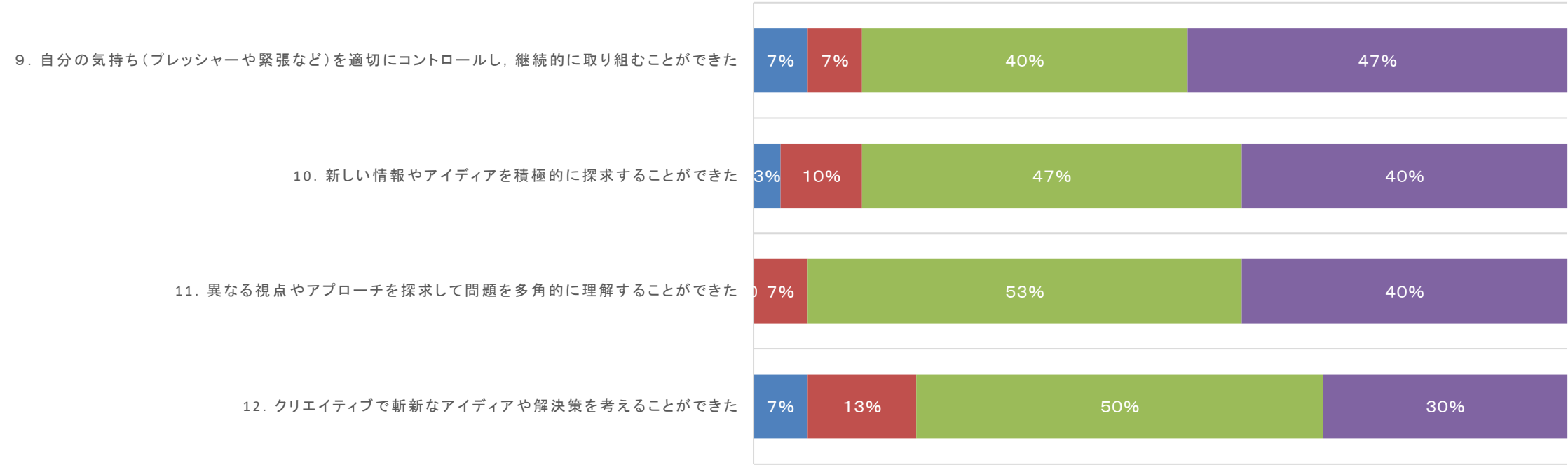


質問について、あてはまる項目を1つ選んでください。(人数)

項 目	1 まったくそう思わない	2 そう思わない	3 そう思う	4 強くそう思う
9. 自分の気持ち(プレッシャーや緊張など)を適切にコントロールし、継続的に取り組むことができた	2	2	12	14
10. 新しい情報やアイデアを積極的に探求することができた	1	3	14	12
11. 異なる視点やアプローチを探求して問題を多角的に理解することができた	0	2	16	12
12. クリエイティブで斬新なアイデアや解決策を考えることができた	2	4	15	9

【課題検討編】 No9～No12/全16問中
(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある

■ 1 まったくそう思わない ■ 2 そう思わない ■ 3 そう思う ■ 4 強くそう思う

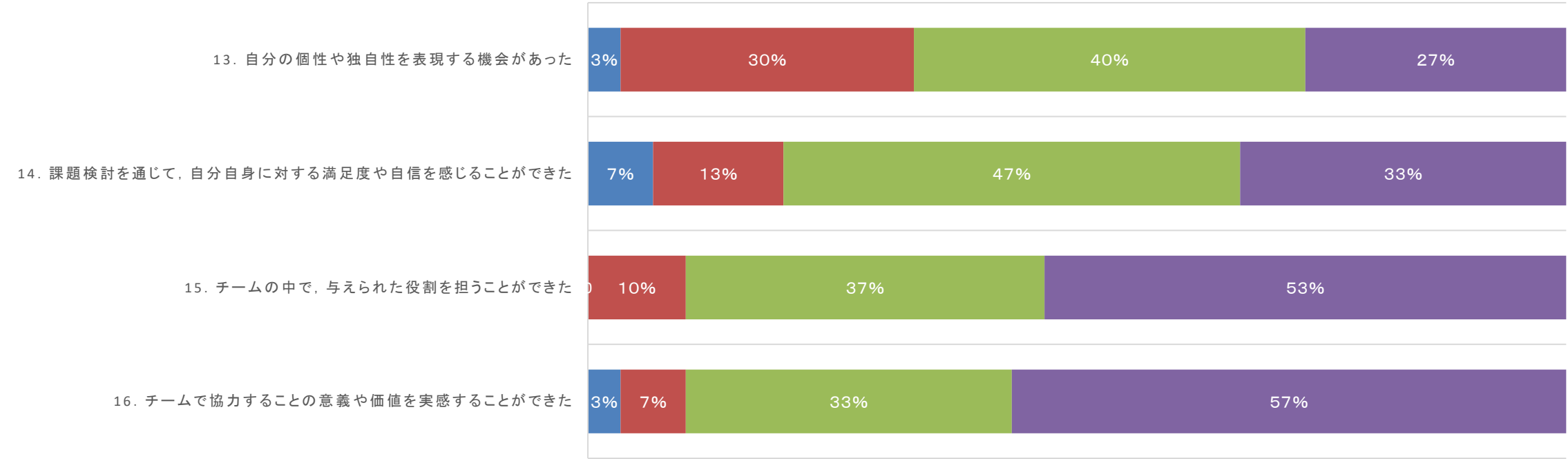


質問について、あてはまる項目を1つ選んでください。(人数)

項 目	1 まったくそう思わない	2 そう思わない	3 そう思う	4 強くそう思う
13. 自分の個性や独自性を表現する機会があった	1	9	12	8
14. 課題検討を通じて、自分自身に対する満足度や自信を感じることができた	2	4	14	10
15. チームの中で、与えられた役割を担うことができた	0	3	11	16
16. チームで協力することの意義や価値を実感することができた	1	2	10	17

【課題検討編】 №13～№16/全16問中
(百分率に換算)

■ 1 まったくそう思わない ■ 2 そう思わない ■ 3 そう思う ■ 4 強くそう思う



競技編

【全員回答】

○対象者：出場8校×最大4名
(分母29に対し、データは重複回答1分名を含むため、百分率に換算)

○アンケート方法：コンテスト終了後、一定期間内にQRコードを読み取り、Google Formsにて回答

○回答率：103.2%

○所属先(学校名)・学年・役割
(選手or補欠)

令和6年度

九州地区高校生
介護技術コンテスト・

エントリー生徒
アンケート
【競技編】



【競技編】

チーム人数	4人	3人	
	5	4	
学年	3年生	2年生	1年生
	16	10	4
役割	選手	補欠	
	16	14	

見出しで役割毎に凡例を表示

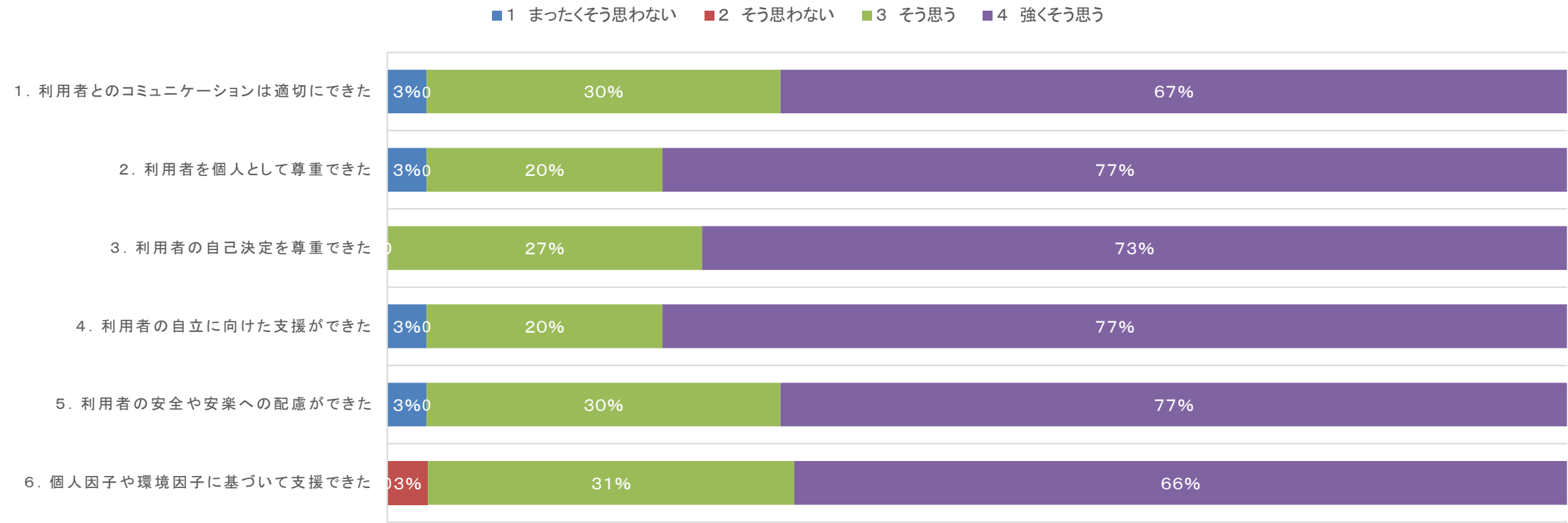
介護技術コンテストの実技や実技応答の場面について、評価してください。

- 競技者（2名）は自分の競技やアピールを振り返って、自己評価してください。
- 競技者以外は、チームの競技やアピールや質疑応答を見て、自分のチームを評価してください。

1 質問について、あてはまる項目を1つ選んでください。(数を入力)

項 目	1 まったくそう思わない	2 そう思わない	3 そう思う	4 強くそう思う
1. 利用者とのコミュニケーションは適切にできた	1	0	9	20
2. 利用者を個人として尊重できた	1	0	6	23
3. 利用者の自己決定を尊重できた	0	0	8	22
4. 利用者の自立に向けた支援ができた	1	0	6	23
5. 利用者の安全や安楽への配慮ができた	1	0	9	20
6. 個人因子や環境因子に基づいて支援できた	0	1	9	19

【競技編】
(百分率に換算)

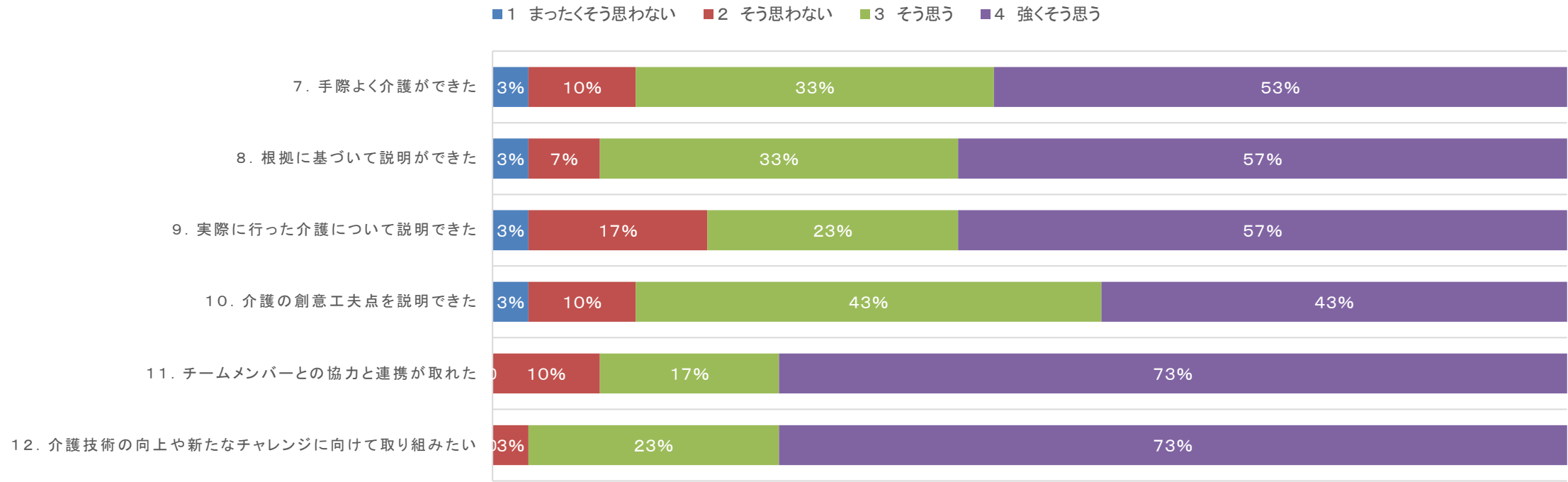


1 質問について、あてはまる項目を1つ選んでください。(数を入力)

項 目	1 まったくそう思わない	2 そう思わない	3 そう思う	4 強くそう思う
7. 手際よく介護ができた	1	3	10	16
8. 根拠に基づいて説明ができた	1	2	10	17
9. 実際に行った介護について説明できた	1	5	7	17
10. 介護の創意工夫点を説明できた	1	3	13	13
11. チームメンバーとの協力と連携が取れた	0	3	5	22
12. 介護技術の向上や新たなチャレンジに向けて取り組みたい	0	1	7	22

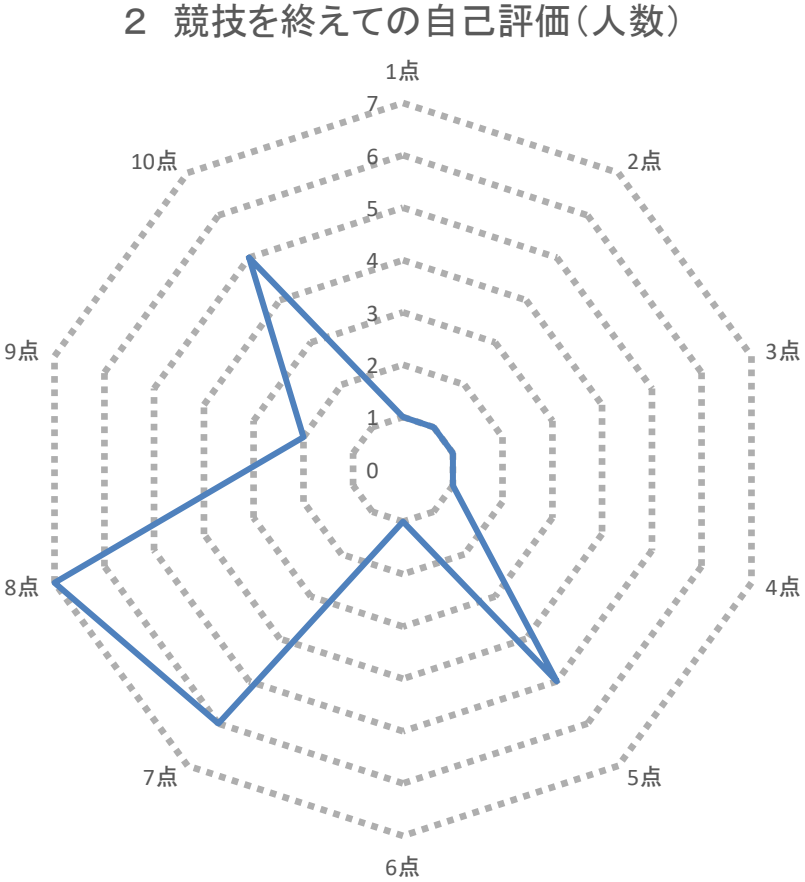
【競技編】

(百分率に換算)・集計値の合計が100%とならないものがある



2 競技を終えて、あなたの自己評価は10点満点中、何点ですか(人数)

1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
1	1	1	1	5	1	6	7	2	5



ポジティブさの度合いを3段階で分類

【全29個中 高度 7個】

3 2について、その点数の理由を記入してください。

- ① 選手は声掛けもよく出来ており長崎さんを考えた支援をスムーズにきちんとできていて、補欠として見てとても満足な介護をしていたと思うからです
- ② これまで補欠と先生で試行錯誤してきた7分間の長崎さんの為の支援をしっかりと出すことが出来たから。また、長崎さんのことを第1に長崎さん主体の介護になるように自己決定を尊重できたから。そして緊張はしたが2人で励まし合い長崎さんにとって安心できる7分の支援を提供できたから。結果は残せなかったけど自分たちにとっては長崎さん主体の長崎さんのことを考えた一番の支援ができ後悔はないです。講評を聞いて私たちが大切にしていたことが伝わっていてとても嬉しかった
- ③ 介護職として利用者さんの想いに寄り添うことが大切だと思い、マッサージなどは介護職がやっていいことなのかなと思ったので、お話をしっかり聞くことを意識し介助する側はゆっくり話を傾聴することが一番現実的じゃないかなと思いました
- ④ 練習通り競技することが出来たから
- ⑤ 出せる最大限の力を出せたから
- ⑥ いままでの練習の成果をしっかりと発揮することができたから
- ⑦ チームで連携して行う事ができていたと思うから

ポジティブさの度合いを3段階で分類

【全29個中 中度 5個】

3 2について、その点数の理由を記入してください。

- ⑧ 実技面は利用者様の気持ちに寄り添って支援を行うことが出来ましたが、根拠を聞かれた際に自分の考えを上手く伝えることが出来なかった所があったから
- ⑨ みんなで協力できた。でも、自分の考えを伝えることがあまりできていなかった
- ⑩ 技術面では満足いきましたが、質疑応答がもう少しだったと思ったから
- ⑪ 納得行くところ、いけないところがある
- ⑫ 練習通りじゃなかったが、自分達の精一杯の力をだせ、なにより楽しんで介護を行うことができ、悔いのない競技だったから

ポジティブさの度合いを3段階で分類

【全29個中 低度 17個】 1 / 2

3 2について,その点数の理由を記入してください。

- ⑬ 質問の時、答えられなかった
- ⑭ 質疑応答で少し止まってしまったから
- ⑮ 質疑応答で戸惑ってしまったこと
- ⑯ 質疑応答をスムーズに言えるようにしたかった
- ⑰ 質疑応答や実技、声かけなどがあまりうまくできなかったため。
- ⑱ 質疑応答や自己アピールが不十分だったから
- ⑲ 自己PRと質疑応答が言えなかったから
- ⑳ 緊張のせい、言い間違いや小さいタイムロスが重なって、時間内に終わることができなかったことと、質疑応答で答えた内容が少し薄かったから

ポジティブさの度合いを3段階で分類

【全27個中 低度 17個】 2 / 2

3 2について、その点数の理由を記入してください。

- ②① 声の掛け方などが少し速くなっていたりしたから
- ②② 最後のアピールが時間内に終わらなかった
- ②③ 緊張が強すぎてとんだから
- ②④ 時間をもっとしっかり見る必要があると感じたから
- ②⑤ 納得できないところが多いから
- ②⑥ 不安定な中で行い、自分の力を最大限出しきれていないから
- ②⑦ 少しサボることがあったため
- ②⑧ 少し悔しさがあったから
- ②⑨ サポートとしてもっと頑張る必要があった

カテゴリーごとで表記 【全25中7個】 1 / 3

10 8・9について感想を書いてください。(あなた自身の行動やチームでの取組など)

- ① 意見をまとめたりしました
- ② 家でもアピールや原稿を考えた
- ③ 声掛けの仕方や立ち上がる前の運動などを試行錯誤しました
- ④ 選手2人で意見を出し合いながら事例検討をした
- ⑤ みんなでしっかり話し合いをたくさん行い、疑問点を出し合った
- ⑥ いろいろ大変なこともあり、お盆休みなどもあったので県大会より練習した時間を取れませんでしたでしたがみんなそれぞれ調べ物をしたり頑張っていた
- ⑦ 最後の最後は自分の力を最大限使って練習した

カテゴリーごとで表記【全25個中11個】 2／3

10 8・9について感想を書いてください。(あなた自身の行動やチームでの取組など)

- ⑧ 協力できた
- ⑨ 協力して行えた
- ⑩ みんな協力してできた
- ⑪ チームのみんなで協力して取り組むことができた
- ⑫ チームで意見を出しながら考えることができた
- ⑬ 一個一個に根拠をつけ深く学ぶ事ができた
- ⑭ 事例研究をよくできたと思う
- ⑮ 自分以外の考えがいっぱいしれた

- ⑯ みんなで協力できて楽しかった
- ⑰ みんなと協力しながら楽しくできたので良かったと思います
- ⑱ 事例検討楽しかった

カテゴリーごとで表記【全25個中 7 個】 3 / 3

10 8・9について感想を書いてください。(あなた自身の行動やチームでの取組など)

- ⑭ チーム内で情報の共有をし課題に取り組んでいた、もっと自分のすべき事は何かを見つけていきたい
- ⑮ まだまだできる時間はあったなと思います
- ⑯ 練習の成果がでたこと
- ⑰ 初めの方は周りに頼ってばかりだった
- ⑱ 怖かったし、緊張した
- ⑲ あまり人前に出たくない性格だった自分が人の前で何かをすることの何か意味があったんかと思う
- ⑳ とりかかりが遅かった

全国高校生介護技術コンテストは「高等学校で福祉を学ぶ生徒が、介護技術を競い合うことにより、高校生の介護技術を高めるとともに、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる能力を育成することができる」という意義のもと開催されています。

その中で、九州地区はこれまで全11回の開催の中で、最優秀賞8回、優秀賞9回受賞という成績を残しています。また、大会運営及び生徒へのご指導に携わる先生方や、出場する生徒達の絶え間ない努力の成果により「高校生介護技術コンテスト」は社会的にもその認知度を高めています。

この度、課題等作成委員会より、10年の節目を迎えた高校生介護技術コンテストのこれまでの課題等を整理するとともに、生徒の学びを見える化し、今後のコンテストを創造していく上での重要な参考に資するために、アンケートを実施する提案がありました。内容は昨年度、全国福祉高等学校長会が「さんフェア福井」で行ったアンケートを一部改編したものとなります。

九福高25号 令和6年8月16日九州地区福祉高等学校長会 文書より抜粋、
下線部最新回数に加筆修正